

つなげよう 広げよう 子どもを育てる”輪”

でんでん

伝々ニュース

2010-1号 ver2

2010.10.20発行

十条商店街で2年目、地域の子育てニーズに応えるNPOへ みんなで明日の扉を開けよう！

十条銀座の真ん中に活動拠点を移して2年目のでんでん子ども応援隊。商店街と町会のみなさんの応援をいただいて、今年はいっそう幅の広い活動に取り組んでいます。

北区政策提案協働事業として取り組んだミニ保育（でんでん保育室）は、この半年間、事故もなく、またスタッフ同士も実に仲良く順調に行えてきました。始めてみて分かったことは、働いてはいないけれど、週に何日か子ども預けることができると子育てがしやすくなるというママがたくさんいて、それもまた大切な地域ニーズであるということ。

でんでん保育室は、このような行政の施策が及ばないところでの保育事業に取り組んだ初めての経験だと思います。それを保育を専門にする事業者ではなくて、民間の市民活動団体が行う経験も初めてのことでしょう。発達につまづきのある子どもの学習サポートも地域で暮らす者が始めたからこそ、子どもたちの個々のニーズにそったサポートができているわけで、地域の福祉や子育てにとって市民活動が果たす役割の大きさが、わたしたちの活動によって実証されつつあるのではないかでしょうか。NPO法人って、こういう活動のためにつくられたのだと思います。

これからは、現場のスタッフが現場で元気に良い活動をしながら、事業運営や組織管理の主人公になっていくことが課題です。それで、本物の市民活動へもう一步前進！

毎月1回 第2月曜日（休日の場合は第3月曜日）の午前中は運営委員会
来年（2011年）1月29日（土）は全会員交流会
会員のみなさんの息を合わせていきます

編集発行

特定非営利活動法人（NPO法人）

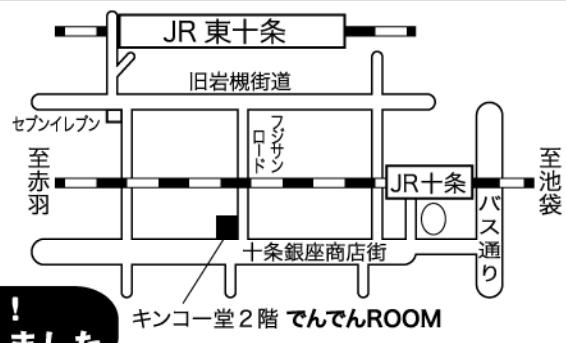
でんでん子ども応援隊

所在地：〒114-0031 北区十条仲原1-27-3

TEL & FAX：03(3905)2355

mail : kids@dendenroom.or.jp
<http://www.dendenroom.or.jp>

新HP開設！
アドレスも変更しました



特定非営利活動法人（NPO法人） でんでん子ども応援隊はこんな活動体です

総会（正会員23名）

理事会（理事長以下6名）

事務局
総務
法人会計
広報委員会



毎月1回開催される
運営委員会の様子

運営委員会

（各事業のリーダー+理事+事務局で構成。各事業セクションごとに運営委員会を持ち、それを全体の運営委員会に持ち寄り、連絡・調整を行っていきます）

1 子ども支援事業 学習サポートスタッフ15人

- ①学習サポート教室事業
火～金曜日 16：30～20：30 土曜日 13：00～15：00
独自事業 年間225日稼働
- ②児童預かり事業（ミニ学童＝WAM事業＝国の補助金）
火～金曜日 16：30～19：30 年間200日（10ヶ月）程度

2 子育て支援事業 スタッフ13人+3人

- ①乳幼児保育事業（ミニ保育＝北区政策提案協働事業＝でんでん保育室）
火～木曜日 9：30～15：30
- ②子連れOK講座（北区地域応援団事業助成）
プログラム数2 月4回程度開催
- ③広場・一時預かり事業 随時実施

3 読書推進事業 スタッフ10人

- ①北区ブックスタートフォローアップ事業
(北区中央図書館より受託事業)
赤ちゃんサロン33回 パパの絵本デビュー3回
子育てガーデン7回
- ②小学生とブックトーク&読み合いプロジェクト
- ③でんでん文庫活動 "子どもたちの身近に本を"

4 子ども 子育てネットワーク事業

- ①イベントの開催
- ②北区子育てネットワーク事業

5 子ども 子育てに関する普及啓発事業

- ①子ども・子育てに関する講座の開催
- ②機関紙、研究報告書、啓発書の発行
- ③ホームページの開設・運営

6 その他 目的を達成するのに必要な事業

子連れOK講座 2010年版



サービスの受け手が、運営の担い手にチャレンジ 北区地域応援団事業の助成を受けて 元気に活動しています

2009年度に独立行政法人福祉医療機構（WAM）助成を受けて」行った「子どもいきいきサポートセンター」の子育て講座はとても好評で14のプログラムで91回、延314組、649人の親子の参加がありました。WAMの助成金事業は同一事業を2年連続で申請できないものなので本年度は終了の予定でしたが、参加していたママさんから「是非続けてほしい。わたしたちが出来ることならやります！」という声が上がりました。それなら「参加者のとりまとめや会場管理などの運営をみんながあやりになるのなら、助成金の申請をしましょうか」ということで取り組みました。プレゼンテーションでも、このことを一番の「売り」にして、活動の意味を力説しました。

写真の上は、最初の打ち合わせ会議の様子。こんなにたくさんのママが一步前に踏み出しました。呼びかけられる側から呼びかけ側に、何事も初めてのことでの苦い体験もしながら、スタッフのみなさん、がんばっています。

プログラムの数はたくさん用意できませんでしたが、まずは「TENゴスペル教室」（写真中）と「親子でHappyヨガ教室」（写真下）の2つを再開、参加者も徐々に増えて、秋には軌道に乗ってきました。

みんなの声にお答えします でんでんROOM

Q でんでん子ども応援隊の活動は区内の市民活動の中でも、とても活発に取組んでいるようですが、資金調達はどのようになさっているのですか？
A ボランティア・市民活動は自主・自立が基本ですから、基本となる事業は自主財源による運営に努めています。学習サポート教室がそれです。コラム欄に書いたように、他の事業でも人・金・場所の3要素を地域のみなさんに支えられて、つまり会費や寄付金などで事業運営が出来るようになるのがいちばんなのですが、現状ではそもそもいかず、事業を拡充・拡大しようとすればさまざまな補助金、助成制度を活用しなければなりません。本年度は国や区から3種類の補助金・助成金を受けてミニ保育などを運営しています。地域ニーズに立脚した事業を企画しきちんと運営していかなければならないのは当然ですが、申請から終了報告までの手続きは簡単なものじゃありません。何日も徹夜して書類を書いて提出、書直しを求められることもしばしば。それでも頑張るのです。



事務局長
木村 松夫
(愛称)きあじいじ

Q でんでんボランティアをやりたいのですが？
A いつでも誰でも歓迎ですよ。でも、地域活動の現場は自分がやりたいことを実現する場所ではないことを分かってください。それに、ゆっくり時間をかけて、お互いの信頼関係をつくるプロセスを経ないと活動は長続きしません。でんでんROOMにいらっしゃれば、その辺のことをお話ししますよ。

法人理事長
豊原 きよみ
(愛称)
でんでんあばさん



ミニ保育 でんでん保育室

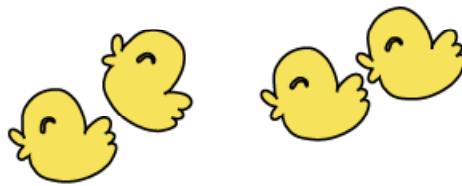
協働事業とは

北区政策提案協働事業は、NPOやボランティア団体等の主体的な関わりのもとで区との協働によるまちづくり事業を進め、多様で豊かな地域社会を実現することを目的とした北区独自の補助金制度です。市民活動団体からの提案を受けて、第三者も含めた委員会でそれが本当に地域ニーズに基づいたものであるかどうかの審査が行われて決定に至ります。

行財政の逼迫状況がつづく自治体は、どこでも新しい事業にお金を出すゆとりはまったくと言ってよいほどありません。その一方で、縦割り・画一的な行政制度下では、施策の隙間にあつた住民ニーズがたくさん生まれてくるものです。こうしたニーズには、行政が直営で行うよりも市民活動の創意性に任せたほうがうまく対応できるという実例がこの制度であり、北区の住民としては全国に自慢できる制度だと思います。

2010年度は、いくつもの提案の中から1件だけ、わたしたちの「ミニ保育by北区子育てネットワークin商店街」事業が選ばれました。

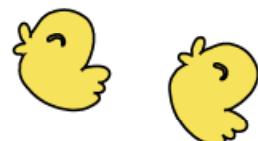
事業案内



- 定 員 8名
- 対 象 2歳までの乳幼児。保育園入園の優先度が低いパートで働く人、自宅で仕事をしている人を優先して受け入れます
- 事業日 週3回（火曜日、水曜日、木曜日） 午前9時30分より午後3時30分の間
- 利用料 週3日ご利用の場合 月額25,000円 週2日ご利用の場合 月額20,000円
週1日ご利用の場合 月額12,000円

10月1日現在、各曜日とも定員を満たしている状況です。もともとのは正式事業名が示すとおり、パートで働くお母さんの保育の手伝いをすることによって保育園の待機児、解消を目指すこでしたが、開設している曜日と時間帯が現状のままでは十分でないかもしれません。そのニーズに応えるよりも、週1日でも2日でも、子どもを預けることができると子育てが楽になるというママたちの利用が多く、とても喜ばれています。来年度は、開設曜日を増やすなどして、もう1年チャレンジ。そして、本格的な保育事業の取り組みへ、さまざまな経験を積み重ねていくことになります。

スタートまでの準備



国の制度で定められた保育施設ではないとはいって、北区が公共のお金を補助金として支出するわけですから、東京都の認可外保育施設に対する指導監督基準を満たすよう、保育士資格を持った者をきちんと確保する、保育施設として設備や環境を整えることが要求されました。また、とても少額とはいえ、保育の現場にかかわったり事務管理業務に携わるスタッフに報酬を支払うわけですから、その根拠となる就業規則や報酬支払い規程を定めることも必要でした。

スタッフたちは、指示と実行という労使関係で仕事をしているわけではなく、あくまでは発意と自主に基づいた活動を行っているわけですから、労働法に基づいた就業規則が当たらない。そこで、いろいろ工夫をしながら、とにかくここでの活動がメンバーによって勝手に行われているものではなく、組織の内外に社会的に責任を伴って行っているものであることを明らかにするさまざまな仕組みをつくりました。

昨年12月に補助金決定して以来4月の開設まで、まるで会社を一個作るような煩雑さでした。

でんでん保育室 ❤ スタッフ紹介



竹田 ひいちゃん

男2人
女1人の母
男児2人の祖母



相澤ともりん

小学4年生の娘
ももちゃんと
生後2ヶ月の
ハムスターきいちゃんの
ママです。絵本大好き



小池いけちゃん

小学4年生
なまいき盛りの
男の子の
ママです



日比野
みずちゃん

高校1年生
小学4年生の女の
2人の母です



高橋うめちゃん

赤ちゃん大好き
元気な子大好き



米満よねちゃん

小学5年生の
男の子のママ
野球好き坊主頭
の息子と一緒に
野球観戦で大
声出しています



鈴木すずちゃん

高校2年生女の子
中学1年生男の子
小学5年生女の子
3人元気な子どもの母です



澤田まこりん

歌が大好き
一緒に楽しく
すごしましょう



事務スタッフ
長田あさぽん

小学6年生の息子
5歳の娘
産まれたばかりがもう一人
元気ママです



事務スタッフ
富田まこちゃん

小学4年生の
男の子と
小学2年生の
女の子のママです
ほっと村でも活動中！



事務スタッフ
西のぞみちゃん

3歳と5歳の
姉妹の母です
初心者ですが
ハンドメイドが好き
姉妹の服とかつくっています

スタッフ 募集中！

★子育て支援の担い手

になって下さい

★稼働時間

9:00～16:00の間の
実働3～6時間

★謝金あり

★詳しくは担当・豊原
まで

室長・竹田縞代

<プロフィール> 2男1女の母。児童館、幼稚園などで多くのママ達と接しながら子育ての悩みや疑問に感じていることを話し合い、育児不安を育児ファンに転換。子育ての楽しさ、素晴らしさを伝えています。

東京家政大学ナースリールーム元保育士。東京都青少年育成協議会チーフアドバイザー。NPJ認定ファシリテータ。「ミキハウス」メール相談員。

<メッセージ／こんな保育を目指します>

- ①「子どもの気持ちに寄り添う」ということを基本姿勢に一人ひとりの発達、発育に応じたきめ細やかな保育を心がけます。
- ②「家庭的な保育」を目指し、安心して無理なく過ごせる時間と環境を大切にします。
- ③保護者と保育者との連携をたいせつにして、心通い合う「子育ての場」をつくります。

ご利用者の声

2010年8月実施のアンケートより

<Aさん> 2男1女の母です。子育てに関して悩むことが多く、これまで児童館、幼稚園などで知り合ったママ友に話を聞いてもらっていました。しかし、今ではちょっとした不安、悩みをでんでんの先生方、子育て経験のある皆様に聞いていただき的確なアドバイスをもらえます。少しでも一人の時間がてきて、自分をリセットすることで心の余裕ができます。なにより皆様が親切で、さらに親身になって応対して下さり、安心して預けられます。

これからも、是非、このような取り組みを続けていただきたいと思います。でんでん保育室に会え、とても感謝しています。

<Bさん> 子どもを預けて仕事や資格の勉強ができる以上に、一人で子育てをしていた時は相談相手がないなくて不安になることも多かったが、ここでは相談しながら子育てができるのが最大のメリット。是非、来年も再来年も事業を続けていってほしいです。

でんでん学習サポート教室

すべての素となっている学習サポート教室

学習サポート教室はでんでん子ども応援隊のおもとになっている事業です。他の事業が行政や諸機関からの委託や補助金、助成金で成り立っているのに対して、学習サポート教室だけは独自事業として運営してきたという資金面でのことばかりではありません。でんでん子ども応援隊の子育てに対する考え方や方法が、この教室に凝縮して注ぎ込まれているのです。

理事長の豊原が地域活動を始めたのは1997年ごろからです。当時、保育園の3才児クラスで起きた子どもいじめ事件が親同士のトラブルに発展し、さらに園長の指導性の問題にまで発展するほどになりました。しかし、子どもたちがどんな気持ちでいるのか、そのケアといういちばん大切なことは置き去りにされたままでした。いじめられた子は結局保育園を退園、小学校では特殊学級に通わざるをえなくなりました。

豊原が始めた寺子屋では、その親子の自尊・他尊感情を育てることに力を注ぎました。知識をたたき込むのではなく、自ら学習することの楽しさを教えることに重点を置いてきました。自分で学習することを知ると、子どもたちは自信を取り戻し、今までの自分を大切にするようになります。次には、自分の個性を発揮してきます。保育園時代にいじめで

苦しんだその子の中には音楽への好奇心が生まれ、やっと自分を見つけることができました。高校に進んでからはリコーダーの全国大会で上位入賞を果たし、音楽大学へ進学するに至りました。傷ついた心を持ったその子は他人の痛みも知ることができるようになり、自ら進んで高齢者施設での音楽ボランティア活動を行うまでになっています。

そんなサポート活動を行いながら10余年、昨年、思い切って今の広いスペースに移ったのをバネにして、今年度はたくさんの生徒さんを受け入れられるようになりました。

学習サポート教室を卒業した子どもたちも、その後数年して戻ってきて、他人を思いやる優しいサポートとして活動に参加するようになっています。

子育てで困っていたら、まずはその解決にお互いが力を貸す関係をつくること。これが、学習サポート教室で始めたでんでん子ども応援隊の基本的スタンスです。そして、子どもたちには自分の意見を表現する権利があること、その権利を子どもたち自身が知り、大人たちはそれを保障しなければならないという考え、そのことが実現される地域社会づくりが大きな目的となって、様々な活動に広がってきて いるのです。

でんでん学習サポート教室 スタッフ紹介



矢作
やはぎ



西山
にしやま



辰巳
たつみ



竹腰
たけこし



岡野
おかの



宇田川
うだがわ



前原
まえはら



厚地
あつち



亀田
かめだ



宍戸
しじど



村井
むらい



杉
すぎ

が3この
活動の写
しサ真
てポで
い！紹
介す
ますス
タッフに
他

ミニ学童＆地域子どもクラブ事業

2010年度の独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成事業で
子どもの居場所をつくる活動を始めました

<児童預かり事業>

行政サービスの学童保育に適応しにくい児童を地域住民主体の子育て支援ネットワークで温かく預かり、地域のリソースを生かした子どもたちの地域クラブ活動を行うものです。非営利活動だからこそできる新しい児童の居場所を運営し、発達障害児、片親世帯、女性の就労を支援していきます。

対象：小学1年生～6年生 6名／日

日時：月～金曜日 午後 4:30～7:30

費用：3時間毎に500円、曜日を決めてお預かりします。

内容：宿題を見た後、サポーターとパソコンや読書等をして過ごします。希望に応じ、でんでん地域子どもクラブへも参加出来ます。

スタッフ：近隣地域の子育て経験者・高齢者・子ども支援に関心のある人材を募集

班のプログラム 講師紹介

中国武術 書道教室



江口 博 先生



堀口玲子先生

フラメンコ教室



甲斐みよこ先生

ブックスタートフォローアップ事業

絵本にめぐり合い豊かな感性を育み、 親子のふれあいを深め、地域の見守りを進める活動

ブックスタートというのは、生まれたばかりの子どもでも絵本と親しみことによって豊かな感性を育てることができるという考えに基づいて、新生児健診で保健センターに訪れた親子に絵本をプレゼントする事業です。今ではどこの自治体でも取り組んでいるのですが、北区は先駆的に取り組んできました。そのフォローアップ事業とは、赤ちゃんが成長にあわせてたくさん絵本と出会う機会や、赤ちゃんのいる家庭が地域に見守られて安心して子育てができるよう環境づくりを進めるプログラムです。

でんでん子ども応援隊は、北区中央図書館からこの事業を受託して5年になりますが、行政が取り組むブックスタート事業としては従来にない広がりと創造的な内容で大きな成果を上げてきました。

今年度は「赤ちゃん絵本サロン」「子育てガーデン」のほかに「赤ちゃんのためのおはなし会」や「パパの絵本デビュー」などのプログラムも充実させて取り組んでいます。



コラム

NPO団体が地域で活動することの必要性

NPO法人でんてん子ども応援隊
理事長：豊原 きよみ

1997年に3人でスタートした「子育てしやすいまちづくり」の活動は、時代のニーズを組み入れたいいろいろな事業を展開しながら、その拠点を5回も移転し十条銀座・キンコー堂さんの2階にたどりつきました。十条という地域に密着した形で、自主財源となる事業（学習サポート教室）を展開しながら子ども・子育て支援を続けてきました。

主婦が取り組む活動としては重すぎる それでも、やらなければ・・・

ここまで来るのには、たくさんの方々のご協力・ご理解=人、その人たちが集い事業を展開できる所=場所、助成金や賛助金や利用料=お金の3要素に恵まれたからだと思います。それでも、現拠点のような商店街に面した42坪の施設をボランティア活動の拠点として維持・運営することは、主婦であるわたしにとって非常に大変なことなのです。自分の子どものことを二の次にし、自分の使える貯金を使い果たし築いてきたものです。なんでこんなことをやっているのか、やらなければならないものなのか？みなさんも考えてみてください。

3要素がそろわなくても、例えば「拠点がなくても子どもたちのための活動ができる」と言われる方があられますぐ、学校や児童館の利用は、どんな子どもに対しても公平に対応できる活動に限られているのです。また、区民センターなどを定期的に独占することも問題が起こるでしょう。

でんてんの場合、発達に何らかの問題を抱えている子どもに対して安価で学習支援をしてくれる機関が身近にないのでそこを何とか解決しようと始めたのが学習サポート教室です。勉強は定期的に何年もサポートしなければその効果は望めません。

制度に当てはまらない活動のための3要素は、 地域の力でつくるほかない

では、その場所、資金、人材はどのように得たらよいのでしょうか？役所では、特定の子どもに対して制度がない限り支援はありません。学校の空き教室ですら使わせてもらえないのです。莫大な資金を提供してくださる人物、組織がいない限りは特定

の子どものことは救うことが出来ないというわけです。もともと、NPO法人という制度は、行政が制度化するには難しく、民間が行うには採算性のない課題の解決をやりやすくするために考えられた制度です。欧米社会では寄付文化、社会貢献意識が発達していて上記の3要素を比較的簡単にそろえ、市民活動として目の前にある問題を解決することが出来るようですが、わが国ではまだまだなのです。

だから、みなさんの善意に呼びかけ協力を仰ぎ、最初は無償でのご協力を募るしかないのです。

個別のニーズに柔軟に応える活動は 市民活動のほうがうまくいく

現在、でんてんでは、ミニ保育事業を北区と協働で行っています。自宅で仕事をしていたり、体調がすぐれないママであったり、仕事をしていなくても週に3日、預かることの出来る保育室です。

現在このような預かりが出来る場所はベビーホテルでしょう。補助金を使える共同保育所もありますが、北区はこれを廃止する方向です。区の計画に逆行するような私たちのミニ保育室ですが、子育て中のママには必要性の高いものと考え、あえて協働事業として北区に提案し開設したものなのです。すべての子どもに必要なものではないけれど、発達に偏りのある子どもの学習支援が必要なように、個別のニーズに応えそれを支えること、臨機応変に対応できる機関は、制度として必要でなくとも、地域の人の力でコミュニティーの中におくことが、子どもが育つ上では絶対に必要なのです。

絶対に必要なみなさまの応援

もちろん、行政の支援や助成も欠かすことができないのですが、何よりも住民自身がどう考え方組むのか、これが重要なことなのです。地域にでんてん子ども応援隊のような特定非営利活動団体があることをみなさんがどのようにお考えになるか、私も一緒に考え活動していきたいと思っています。

これからのお「伝々ニュース」は人と人をつなぎ、子どもの権利を支える仲間づくりを訴えていきたいと思います。どうぞお読みください。